

篠山市城北地区案内

①篠山市総合スポーツセンター（郡家）

緑に包まれた全天候型オムニコート7面とグラウンド、そして体育館が整備され、幅広く各種のスポーツやレクリエーション活動が楽しめる。

②新宮古墳と新宮神社（郡家）

平地に築城された篠山市内最大の円墳。築造時期は古墳時代後期（5世紀）後半と推定され、墳丘の南側に応永年間（1394~1428）の創建といわれる新宮神社がある。

③藤岡ダム（藤岡奥）

総貯水量870,000%。で、昭和58年（1983）11月竣工の農業用多目的ダム。

④五台山 東窟寺（天台宗）と岩谷の観音さん（藤岡奥）

大化年間（645~650）に、法道仙人が開いたと伝えられる。山号は、山上の五つの大岩石から中国の仏教霊場五台山に因んだものであり、その東面の巖窟に経典を納めたことにより「東窟寺」と称される。

境内から600m登ると「岩谷の観音さん」に着く。ここの観世音菩薩は「つごもり観音」といい、月末に参拝者が多い。

⑤丹波与作誕生の地（熊谷）

「丹波与作は馬追いなれど、今じゃお江戸で二本差し」と篠山節に歌われている丹波与作がこの地で生まれ、百姓仕事のかたわら馬追いをし、ついに江戸に出て立派な武士になったという。

⑥石くど（熊谷）

田の中にある巨大な石を積み上げた横穴式石室で、古墳の封土が流出して石室が露出したもので、6世紀頃に築造されたと推測されている。一見、かまどの「くど」に似ていることからその名がついている。

⑦保沢池（丸山）

安永年間（1772~1780）に藩主青山忠高が藩領の早害を憂い、多紀連山の谷水を受けて造成された大池。その傍らに、巖島神社を祀る小さな社がある。

⑧大賣神社（寺内）

主祭神は大宮売命（おおみやのめのみこと）で、篠山市内でも有数の古社。

毎年、10月11日の秋の大祭には鳳レン渡御の儀式があり、荘厳華麗で多くの参拝者が集まる。

⑨村上周防守忠勝の墓所（黒岡）

丹羽長秀の家臣だった村上周防守忠勝は、関ヶ原の合戦には東軍として越後にとどまり、上杉軍の鎮圧に努めた。越後村上城主の家督を継いだ、家中における騒動を理由に丹波篠山へ配流となり、慶長15年に亡くなった。

ほうしょうじ
⑩法昌寺（黒岡）

御本尊は、釈迦牟尼如来。参道の両脇には所せましとお堂やお像などが立ち並び、正面に本堂、左側に豊川稲荷がある。3月と11月にはお祭りが行われ、多くの信者が参詣される。特に、2月3日は「星祭り法要」が修行されている。

たまみず
⑪玉水（黒岡）

篠山城の「積み上げ井戸」に水脈が通じる径2.5mの小池。

城主が復元の際、金気を嫌って金具を使わず、鮑貝あわびで掘らせたと伝えられている。

かすが
⑫春日神社（黒岡）

黒岡村の氏神。境内にある能舞台では、元旦に「翁」、春の春日能と年2回の能会や狂言が奉納されている。

また、絵馬堂には、22面の絵馬が展示されている。絵馬は、城主とその家族、上級家臣が奉納したものである。

はちまん
⑬沢田八幡神社（沢田）

平安時代末期頃、創建され、後に沢田城主の小林氏が源氏の氏神八幡大神を勧請して、現在の社号となる。ご祭神のうち、国土開発国魂神と同姫神は、付近の沼沢地を開拓された遠い祖神とされ、毎年10月16日の祭礼に行われる大蛇に模したハモを切る珍しい神事「鱧切祭」と関係がある古い信仰の神である。

⑭沢田城跡（沢田）

八上城主波多野秀治の武将小林近江守長任の居城跡。笹山、飛の山（権現山）などとともに、篠山盆地中央部の防衛の役目をもっていた。

⑮沢田山 少林寺（沢田）

元沢田城主並びに先祖の菩提寺。ご本尊は、十一面観世音菩薩坐像であり、木造毘沙門天立像がある。

⑯玄奘三蔵法師聖骨塔（沢田）

少林寺の後ろの南面した見晴らしのよい高台に、「三蔵法師」の立派な「聖骨塔」が立っている。長安の都に葬られていた聖骨が偶然発掘され、全世界の9ヶ所に分けられた。わが国では6ヶ所に奉安されており、その中の一つの聖骨2粒が篠山に奉迎された。

⑰野間 巖島神社（野間）

本尊は弁財天で五穀豊穰を祈願し、地域住民が水の神として信仰している。頭に白蛇があり4対の手には持ち物を持ち、極彩色豊かな女身の立像である。神代以来、篠山川はその源の四八滝からの霊川であり、弁財天はこの川の守り神として鎮座されている。

やくしどう
⑱大熊 薬師堂（大熊）

県立篠山鳳鳴高校がある丘陵一体を、笛吹山と呼ぶ。源義経一行が南北二手に分かれ、北を進んでいた義経がこの地で休息したときに、笛を取り出し曲を奏でたところ

ろ、東の谷から太鼓の音がして笛に合わせてことから「笛吹山」、笛を奏でた地の薬師如来やくしにょらいを「笛の薬師」と呼ぶようになった。

とどろきはちまん
⑱ 轟 八幡神社 (新莊)

毎年、10月の第3日曜日には秋の大祭が行われ、以前はたくさんのおもちをお供えごこくほうじょうして五穀豊穰を祈願していた。